

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷十三第

行發日一月三年五和昭

論叢

資本利子税及第二地方附加税の禁止規定 . . . 法學博士 神戸 正雄

數學的經濟學 . . . 文學博士 米田庄太郎

國際價格の理論 . . . 文學博士 高田 保馬

講演

日本に於ける海上保險の起原發達 . . . 平生 釦三郎

雜錄

世界の食糧問題 . . . 經濟學士 八木芳之助

定期飛行機の職能 . . . 經濟學士 山口 信男

女給税に就て . . . 經濟學士 羽根 盛一

國際移民統計 . . . 經濟學士 金持 一郎

社會階級の交替性 . . . 經濟學士 益田 熊雄

疾病統計瞥見 . . . 法學博士 財部 靜治

近着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

統計拾穗抄（一〇）

財部 靜治

一三 疾病統計瞥見

一 延壽長命を希ふと共に、無病息災を念ふは、欲生の人情然らしむる所、經驗及學術の知識開けざりし昔時以來、厄除け厄拂ひ、禁厭及祈願の諸方便が、世界各地に傳へらるゝは之が爲めなり、進歩を誇らんとする現代に至り、生命保險の發達以外、疾病保險、健康保險の普及を以て、行政組織否社會組織整頓の一要項たらしむることゝなりしも、之が反映たり、又右通有人情の支配は、失業及生活難を以て、現文明國の固有病弊視せんとする者にも、物的享樂の資に何の不足なき向に對しても、齊しく及ぼさる、かくて統計の見地より察するも、死亡及通常死因としての疾病に關する統計、漸次開拓更張せられし間に、萬病の起伏消長を

明かにすべき疾病統計は、夙に着想案せられ、又様々の形により實現せられたり、實地衛生政策の發達上、列國に先んじたる英國は、此點に就きても種々の模範を垂るゝと共に、諸國に於ても懼病統計(従前より Morbidity, Morbidity od. Morbilität の統計として知らる)特にその動態は、社會研究の目的よりするも、諸公共施設特に衛生政策のために、大に重んずべきこと、別けて近年に至り痛感せられ、統計學研究者の界内にありては、之が研究を含むべき衛生事情統計の一編を、實際統計學の大系中に分立せしめんとする者 (Franz Žizek) を生めると共に、その研究の扶植を重視せる特別著書(その例として茲には B. Chajes, Kompendium der Sozialen Hygiene, 1921; Karl Kiskalt, Einführung in die Medizinalstatistik, 1919 を舉ぐるに止む)紙型化さるゝの風、漸く一流を成すに至れり。素より此研究範圍に就き醫學の素養なくして、徹底的研究を遂げんとするが

如きは、求めて難きを望むの嫌あるべしと雖も、本邦にありては尠くとも統計専門の學者間及實際界に於て、是を等閑に附するの嫌ある丈け、その研究の重味は一入加はると考ふるを以て、以下その片影を瞥見し、他日精研を重ねるの踏み石たらしめんと欲す。

二 攝生保命に努め、自愛又、強に焦慮し、髮膚も亦是を毀損することなきを期するは、各自修身の第一義たること、今も昔と渝ることなきや謂ふ迄もなし。是を國家社會の見地より察するも、衆庶克く强健安息の生活を樂むは、社會昇平の仁澤上下に布くの祥瑞として、祝福すべき所なり、かくて人口研究に伴ふべき健康又は疾病の統計資料は、死亡の記録同様、實際界の要望を直接に充たすべく、特に公衆衛生を裨益するたため、又疾病保險仕組に於ける危険決定のために必要なり、傳染病並に特殊職業上の特別勤勞により惹起さるゝ諸疾病の報告には、實際上の特別意義を伴ふことを

想ふべきのみならず、その統計は社會事情特に國民經濟研究の目的よりするも、相當に重んずべし、(逐齡平脈の變動曲線研究の一例に就き、同種研究萬端の要務を、容易に洞察せしむべきが如く、醫學本來の純自然科學的見地よりせる、統計的研究の、重要範圍あることを併記す) 疾病が病人自身の苦惱たるのみならず、その勤勞無能、是が看護療養のために他人にその係累を及ぼし、その家族否社會全般を煩はすべきにより、是を窺知すべし、素より人口に就きての同一認識目的は、古くよりその例乏しからざるが如く、或程度迄年齢別の研究により達せられ得べし、されど同一年齢の組成齊一なるに拘はらず、その身體上、智腦上に於ける奉仕能力の程度如何により、國民經濟上に及ぼす意義不同なると珍しからず、而して身體の奉仕能力は、筋肉の發育及健康狀態如何による結果なり、諸國民間及諸階級民間に於て、此方面につき詳細なる研究を遂ぐるは重要

なり、夙にこの特殊着眼點に力を注ぎて、編成されたる名著 H. Westergaard, Die Lehre von der Mortalität und Morbilität, Jena 1881. 2. Aufl. 1901 が、統計學の世界的文獻上光彩を放つは、一は之がためなりと雖も、一般に人口論に關する諸國現存統計資料は、殆ねく此研究目的を遂げしめ兼ねるの歎を、今尙繰返さしむるは惜む可し。

人體計量其の他之に關聯せる諸學と、その個別觀察とは、分量に富めりと雖も、從來達し得たる所にては、社會生活上國民經濟上興味を覺へしむること輕微なり、又積極的健康程度につきては、近年特に體質統計並に體育競技統計の發達となり、之が開拓の曙光を窺はしむるものなきに非ずと雖も、之が判斷の必須規矩として、統計の網に羅致し得べきもの全く存せず、單に消極的に極めて粗大に察取し得べきのみなり、そは道德統計論が實は不德行爲の統計的研究により、殆

んどその全部を盡すと趣相似たり、年齢別の研究に之を及ぼして考ふる際、特に乳幼児期の疾病は、同齡級の死亡同様重視すべき所、本邦家族生活傳統の道德に訴へ、國民の大多數經濟生活の現況及その將來に鑑みる時は、取分け之を感じずんば非ずと雖も、兒女保險が平民保險たる簡易保險の圈外に、依然として遺棄せらるゝと同様、乳幼兒疾病統計は統計上の棄子に比擬し得べきものあり、その結果として右觀察の職分は、已むを得ず狹聞の程度に甘んじ、その年齢のため未だ又は最早完全生産力を有せずとすべきものゝ外、民衆中如何なる分子が、如何なる程度に於て身體上の理由より、多少不生産的なりとすべきかを、觀察するに方向けらるゝの概あり。

三 以上述ぶる如き身體事情として問ふべきもの、不具以外には疾病(統計の目的よりせば自から病人、發病又は罹病 *Erkrankungen* の調査として問はるべし)に存すべき

や謂ふ迄もなし、現存統計上普通に行はるゝ如く、死亡及死因の程度を窺ふのみにては、公衆健康狀態の映寫をも授くるに足らざるを以て、別に國民中病氣に罹れる者を明確に知るはその意義に富めり、此點に付永年英國 *Bighon* の衛生吏醫 *Medical Officer of Health* として令名ありその好著 *The Elements of Vital Statistics* により、聲價を中外に高めつゝある *A. Newsholme* (同一方面に關する同人の論文 *A National System of Notification and Registration of Sickness. Journal of the Roy. Stat. Soc. 1896* あることを併記す)が、此點に就き説ける所は巧妙適切なるを以て、以下尙その所説を骨子として、敷衍する所あらんか。

病氣の蔓る程度につきては、死亡の記録による丈にては、必然不完全にして又手遅れの一管見を收め得べきのみ、若し衛生吏醫にして豫防し得べき疾病の事例毎に、逸早く之が通告に接し、病氣の經過及昂進の

跡を尋ね、又諸豫防策を採用し得たりとせんか、公衆衛生擁護上増大せる力を收むるに至らん、かくて一八七四年 Dr. Lyon Playfair は、疾病の記録重要なを揚言せんとして次の如く謂へり、「死亡の記録丈けにては、岸に撒き散らされし難破船のみ録するにさも似たり、されどそは屢々見る如く廻り来る荒れの結果として、病氣の大浪に弄ばれ、その形を損ね航行不自由となりし諸船につき、何の記録をも授けず、疾病の記録あらば來らんとする暴風を知らしむべく、その襲來に應ずるため船の荷積を直すの望あらしめん。」

死亡統計は必ずや生命の終焉に先だち、過ぎ來りしことを悉く不問に付す、かくて治し得べき疾病による致死例丈けを、通告さるゝ衛生吏醫は、大部分は單に一事件記録者たる無力の地位にあり、されば恐水病にそ、例あるが如く、病めば悉く致命的なるべき場合はいざ知らず、一定疾病の消長は、同病の各事例に關す

る記録なくては、絶對確實に測定さるゝ能はず。

疾病と死亡との間に、一の確定比ありと假定するは誤れり、一定傳染病の致死度(Lethality)獨逸の用例によれば、罹病數に對し百分比として示されたる死亡數を、致死率(Lethality)とす、前出 Kisskall によれば、醫學の専門著書中にては、死亡率 Mortality と致死率とが、屢々混同せらるゝは悲しむべしとせり)は、様々な事情の下又その發病異なるにより大に變ず、時として疾病の最高比と、輕少なる死亡率と組合はさるゝを發見す、假令ば虎列刺は一疫病となれる初期よりも、その末期に近づけば死の危險尠し、かくて單純にその死亡統計のみに本づき、抽出されたる一結論は、同病の傳播上衰勢あることを過言することゝなり易し、又猖紅熱は地方を異にするにより又同地方にても時期を異にするによりて、大にその致死度を變ぜしむ、又疾病によりてはその若干事例上副次的諸結果により、然りとすべき場合を除け

ば、致死的なこと稀なるも、同病のため一層危篤なる容體を助勢するため、又はその他の理由あるにより、之が事例の通告に接すること望ましきあり、扁桃腺炎、耳下腺炎、水痘(前記の著書一八九九年の第三版中、その外淋病を併記せるに反し、一九二三年の第四版中之を削れるは、注目を値ひす)の如きは然り。

死亡統計は必ずや生命の終焉以前に起りし、何事をも不問に附す、世には人の身體を不隨ならしむるも、之を死に致すことなかるべき疾病夥しきに拘はらず、死亡統計は之につき無言なり、共同福祉 Commonwealth 及共同健康 Common Health の見地よりせんか、疾病は死亡に比して一層重大なり、蓋し Dr. Dickson の一名言により道破せられし如く、一社會の繁榮に影響すべきものとして最も重要なものは、死亡よりも罹病の回数及長短なればなり、Charles Dickens, All the Year Round, vol. iv. にも謂へる如く、「人の氣掛りとなるこ

と多きは、到來するの外なき一死亡の可能的事例よりも、寧ろ人をして臥床せしむることもあるべき、發病五十回の危険を知るにあり、吾人は又被殺害者及負傷者の名寄せを知るの要あり、「長命なるも永續的疾病により、その生産力殺されたるは、短命なるも劇烈なる勞働力により、活氣を附與されしものに比し、國民經濟上輕視すべしと説くは、社會に潜在せる網紀保維力と敬老の美風とを輕視し、金錢的利害偏重の隻眼的見地より、世事を談ずるの嫌ひなしとせざるも、立言の主旨は同一根柢に根ざすと觀じ得べし。

人身不隨を誘致すべき疾病の、名目様々なるものに關する地方報告は、迅速に疫病の手當に當らしむべきのみならず、季節及氣候 諸社會事情 諸産業の健康に及ぼす影響を顯はならしむべし、これ諸地方間に於ける疾病の比較研究特に地方病の研究が、かゝる調査を促すの因となり、又果となりし所以たると共に、全

國各種の疾病に及ぼさるべき、普通疾病統計を備はらしめんとするの希望が、古來諸方面より起されし所以なり、此點に付英國行政統計史上又人口統計の研究上、不朽の功績を貽せる William Farr (一八〇七—一八八三)が、前世紀七十年代の初期に出でし、 Registrar-General の第三五年報附録中、疾病の全國記錄制により、大方惹起さるべしとその當時に想はれたる諸利益を、總括して評論せる所、要領を得たるにより以下附説せんか、惟へらく「現存せる諸醫員の諸報告は、大なる實際的價值あり、又日を重ぬるに従ひ益々貴重となるらん、唯各郡村又は大都市に幹部醫員を配置し、之に數人の書記をつけ、各地方より得らるべき毎週疾病報告の結果を、その手によりて整理公刊せしむることゝし、その間毎週報告さるゝ新發病、回復、死亡と、諸病院、製劑所及貧民院に、居残れる患者とを分類すること、軍隊の報告に示さるゝが如くする、今尙缺けた

る所なり、是等の材料を首府にて整理し、齊一の一定案によりて編製することゝするは、國民的案件なり、時日を省くがために疾病の諸報告を倫敦に送らしめ、齊一の様式により同地にて解析すること、死因につきて現在行はるゝが如くすべしとは、現に着想せらるゝ所なるが、そは現時郵便事務の仕組に訴へ、裕に行はれ得べき所なり、究極に目指すべきは、一般公衆間に於ける疾病事例の報告を、現在英蘭軍隊につき仰ぎ得べきが如く完備せしむるにあり、そは治療法のためにも、衛生のためにも、無上の價值ある一貢獻たらん、之がために諸治療家をして、諸衛生事情社會事情の下にある國民につき、又現存諸治療法の下、諸形式の疾病全部に付、その繼續期間及致死率を決定するの望あらしむべきを以てなり、妄想は一掃せられ、野師的醫藥 Quackery は占星術と同様完全に撲滅せられ、治療法の一學問は創成せられ、惱みは薄らぎ、人の命は幾

多の危険を除かれん、かくて死亡事例及死因の全國的報告は、英國醫者の伐才が、その藥籠中に取入れんとして見通し得ざるべき、一武庫たるに至らん」と、かくて全國疾病記錄制問題は、諸醫事關係者、衛生家及諸國務大臣により祝福されしに拘はらず、英國に於てさへ何等實行の運びに入ることなかりしも、右一先覺の叫び聲は、何れの日にか鍼治の功を奏すべきを信じて疑はず。

疾病の各事例を一々知ること可能なりしとするも、その要ありとせざるや明かなり、健康及疾病の分界線は不良に引かる、かくて人を不隨ならしむべき疾病に限り、之を報告するの要ありとすべし、かく觀じ來ると共にやがて又着想さるべきは、疾病の統計難にあり、以下少しく説かん。

疾病統計を不完全ならしむる所以のもの、材料そのものゝ困難に由來す、個人につきても衆人につきても

も、病人か否かを判然識別するに難し、既に疾病何たるかの觀念につき、説の一致を見ず、即ち之が統計にありては、死亡統計の物體と異り、諸症狀の絶えざる轉換よりなれる一成行を取扱ひ、而もその諸症狀を確かに見極め得べき一式に、列擧するは難く否屢々不可能なるべき事項に關す、之が統計難は傳染病以外の病氣、特に慢性病又體質上の病弱につき特に著し、加之學問上疾病の限界に付、説の一致を見たりとするも、之が無難なる統計的察取を遂ぐるの目的につきては、各罹病者が各場合にその主觀見解を、大に異にすべき障礙あり、そは通告義務に基づく繼續調査を遂ぐる場合にては、將た實地調査に基づく同時調査を遂ぐる際にても亦然り、輕重の程度に變りなき症狀にあり乍ら、甲は苦患を訴へ、乙は然らず、甲は醫師の許に走り、乙は然らず、又幾多の重病は療治不行届にして、畢竟全く無病の如く經過せられ、即ちその尠からざる

數は、死亡ありしがため或は死の少し以前に、醫師の知る所となる、かゝる事情あるがために、事實を穿てる普通疾病統計を、收むるの域に達せざること遠し、通告義務ある疾病につきても、役所の計數は罹病の實際程度に行届かず、現在の實況上一面には特別理由により割合に認知し易く、素より同時に又特に重大なる諸疾病形態と、一面絶えず特別取締りを受けつゝある階級民とにつき、信すべき材料を有するに過ぎず。

四 銷_ニ病患_ニ於_ニ未_ニ崩_ニ濟_ニ億兆_ニ於_ニ壽域_ニ則_ニ仁術_ニ之_ニ博施_ニ（木下順庵の語）なり、實に養生問題を個人より大衆に移して考ふる場合、この濟衆の大業を、醫藥により衣食する人々のみに委ねて、晏如たり得べきに非ず、之が精選の處方を公論に訴へんとするに當り、清く正しき一言を挿むの資格は統計にも亦保たる、以上衆庶の健否判斷の材料、疾病統計の重要及その困難につき、一瞥見に過ぎざるをも尙棄てざらんとするは、之を想ふの

婆心に驅られたる結果のみ。素より統計の能には自から限りあり、特に疾病統計にありては、具體的事項のみを限り取扱ふべく、從ひて罹病、療治、死亡及癱疾に終れる結末を取扱ふも、疾病の快癒そのものを取扱はざるを、常に銘心するの要あり、從ひてその間に人の意見挿まるの餘地に富み、ために利用の値打甚大なる一統計たらしむるに必要な基本は、恰も先驗的に失はるゝも、是を擧げてその統計を全然放擲して、可なりとするの理由に充つべきに非ず、我中央統計委員會は列國の大勢に驅られ、近年疾病分類の一定方式を議せることあり、又健康保險法は實施せられてより茲に數年を経 疾病の統計資料も積まれつゝあり、旁々吾人は此統計の將來に洋々たる希望を繋がんと欲す。